

3級 【シーチング組み立て】傾向と対策

<地直し・布目>

- ・持参したシーチングが厚すぎたり薄すぎたり、糊のききすぎたもの、腰のなさすぎるものなど、シャツブラウスのシーチング組み立てに適さないものを使用したため、シーチングの仕上がりがうまくいかず減点されることが多いので、標準的なシーチングを購入し使用することが望ましい。シーチングの地直しが不完全なためにシルエットがうまく出ないこともあるので、試験以前の課題として適切なシーチングを正確に地直ししてしわの出ないように持参するよう心掛けていただきたい。
- ・シーチングにパターンを描き写す方法として、パターンの上にシーチングをのせてトレースする方法が一般的であるが、パターンとシーチングの地の目を完全に合わせて、必要な個所にプッシュピンや文鎮で固定してトレースする必要がある。
- ・トレース時に基準となる線（CF・CB・BL・袖中心線・袖わたり線など）を、忘れずに写しとることを心掛けていただきたい。

<身頃>

- ・シーチングに写したパターン線に対して、正確に縫い代を記入した後に裁断する。できれば、所々に縫い代幅の線を引き、裁断することが望ましいが、部分的に縫い代幅が極端に狭くなったり広くなったりしているものが見られた。
- ・シャツブラウスであれば、切り替え線は1cm前後の一定の縫い代幅を付けた状態で、切り込みを入れなくても収まる程度のカーブ線が縫いやすく、美しい仕上がりが期待できるので、縫い代幅は正確に（裾・袖口は3～4cm、他は1cm程度）裁断して、アイロン処理することで実物の仕上がりに近いシルエットを出すことが可能と思われる。
- ・シーチングのピン打ちは決められた方法があるわけではないが、不正確なピン打ちでシルエットを崩すことは避けたい。一般的にシーチングのダーツ線や縫い目線は、どちらか一方を折って重ね、片倒しの状態にとめることが多いが、上に乗る側のシーチングの折り目にピンを刺し、下のシーチングを少量（1mm程度）すくってピン先を斜め上に出す方法が、ピンのあたりが少なくきれいな仕上がりになる。縫い目線に対しての方向は斜め・直角・平行など、止める角度に正解があるわけではないが、ピンを止めたことによってシーチングのシルエットを崩している場合は減点の対象になる。
- ・シーチングの縫い代を片倒しの状態にピン打ちする場合、どちら側を上に乗せるかについても正解があるわけではなく、結果としてシーチングが美しく表現されていればよい。今回はウエストダーツであるため縫製時と同様、縫い代が中心に片返しになるよう中心側の線を折って脇側の線に乗せて止める。
- ・組み立てたブラウスをボディに着せ付けする場合、前中心・後ろ中心を合わせ、シーチングが着崩れないように、必要な箇所にピン打ちすることが望ましい。前後中心がずれ

ないようにネックライン付近やヒップの高い位置をダブルピンでボディにしっかり止め、衿の外回りも動かないようにする。

<衿・衿付け>

- ・衿の地の目はたて地、よこ地どちらでもよいとされているが、本来のシーチング組み立ての目的であるパターン修正に適した方法としては、後ろ中心をたて地にしたほうが適切と思われる。
- ・衿の外回りの縫い代は裁ち切りでもよいとされているが、特別な場合（微妙なカーブ線や形状の場合）以外は裁ち切りにしないで、縫い代が浮き上がらないようにアイロンでしっかり折り込んで、ピン打ちはしないほうが望ましい。衿付け線のピン打ちは、縫い目線のきわを衿付け線に沿って平行に止めるべきである。
- ・今回セーラーカラーで衿腰が低い衿であるため、衿付け線の縫い代は折らずカーブの強いところに切り込みをいれ、身頃の上に衿ぐりの上がり線を重ねて乗せピンを平行に打つべきであった。

<袖・袖付け>

- ・袖付けのピン打ちは、縫い目線のきわを袖付け線に沿って平行に止めるべきであるが、ピン打ちの不備のために袖のシルエットを崩してしまったものが多かった。
- ・袖山が、身頃アームホール寸法より小さいために、身頃がいせ込まれ身頃にしわが出ている物もあった。
- ・今回は身頃の袖ぐりにステッチがないので、イセの少ない袖高の袖であるが、身頃高になっている物もあった。合格の範囲ではあるが、身頃に無理が掛かりしわの原因になっている。

<ボタン（身頃）>

- ・ボタン位置とバランスは、ほとんどよくできていたと思われるが、まれにボタンの数の間違いや大きすぎるもの、小さすぎるものもあった。

<ステッチ>

- ・パターン上のステッチは、パターンの端と端に記入されていればよいが、シーチング組み立てにおいては、すべて記入されているべきである。
- ・ステッチ幅違い、ステッチが途中までのものや不備なため、減点されたものがあった。